

あとがき

この論文集は、不肖井上の古稀を機会に、かつての教え子や同僚、関係者が寄せてくれた論文をまとめたものである。田辺和子さんが先に立って、様々な方の原稿をまとめて下さった。阿部新さん、金順任さんも実現に努力してくださったようで、心から御礼申し上げます。インターネット版を思いついたのは、方言学のインターネットジャーナル *Dialectologia* の体験による。スペインの大学の方言学者 Maria-Pilar Perea さんが始めた雑誌だが、これまで縁があつて、数編を寄稿できた。世界中からアクセスしてもらえらる。

古稀記念論文集をオンラインにしたときの難点は、論文集単独でインターネットで公開しても、論文検索にひっきりかりにくいことである。学術論文の検索でたどれるようにするためには、定期刊行物の臨時増刊号にすればいいと思いついた。身近に『明海日本語』という学術誌があり、ISSN の番号が付いている。1年1回の刊行なので、臨時増刊号として位置付けていただいた。明海大学日本語学科の皆様と、編集実務に携わった佐々木氏、西川氏のご配慮をいただいた。深く感謝申し上げます。今回は出版社に負担をかけたくないので、インターネット版にした。それでもなお集まった論文の整理が必要で、日本女子大学の川上摩里子さんに作業をお願いしたようである。また、表紙にあたるものの整備には、「明海日本語」の刊行に携わっている印刷会社の助力も必要だった。

インターネット版にしたので、便利な点もある。井上の文献目録は、助言により、エクセルファイルのまま載せることになった。すでにインターネットに載っている論文は、青字の URL 部分をクリックすると、ジャンプしてすぐに読むことができる。高丸さんの作業で、著者本人にとっても便利な機能である。なお文献目録では、口頭発表との関係や、日本語版・英語版の相互参照情報も残した。

実は還暦の折にも、さらに東京外国語大学定年の時にも、出版の話があつた。記念論文集を刊行する話は打ち合わせで、立ち消えになった「テーマが多様である」「売れない」という意見があつたからという。また資料図集を刊行する話もあつたが、全員の原稿が集まらなかったもので、実現しなかった。出版は同級会や飲み会と同じで、だれかが中心になって強かに推し進めないと、実現が難しいようである。集まった原稿は相互に点検したそうなので、査読があつたと同様の価値がある。教え子の研究成果を見て成長を確かめるのが楽しみなので、この論文集は、まことにありがたい。一般の方にも目を通していただき、役立てていただければ幸いである。

2013（平成 25）年 10 月 30 日

井上史雄